

令和7年4月 番組審議会議事録

株式会社び〜びる

2025年4月30日

作成：放送部 吉原 彩花

令和7年4月番組審議会 議事録

- 日 時 令和7年4月30日(水) 10:30~11:30
- 会 場 (株)ぴーぷる 大会議室
- 出席者 委員長 栗原 宣康 (唐津市 教育委員会 教育長)【再任】
委 員 木村 剛 (唐津青年会議所 副理事/
(株)渚館きむら 代表取締役)【再任】
西 亘 (玄海町みんなの地域商社 統括マネージャー)
松尾 由美 (国際ソロプチミスト唐津 会長)
松田 毅 (佐賀新聞 唐津支社長)
森 千晶 (唐津市 政策部 広聴広報課 課長)
山口 ひろみ (唐津市子育て支援情報センターセンター長)
山下 正美 (唐津商工会議所 専務理事)
ぴーぷる 中村 隆 (代表取締役社長)
亀井 信一 (取締役放送部長)
松尾 卓 (放送部 副部長)
吉原 彩花 (放送部)
- 欠 席 委 員

※敬称略。委員は50音順

■. 株式会社ぴーぷる 社長 中村 隆 挨拶

連休の忙しい中に出席いただきありがとうございます。毎月 1 日の新聞折り込みで配布している「月刊ピープル」では、現在実施している唐津市情報基盤光ケーブル推進事業について見やすい文字の大きさを掲載している。全世帯切り替えということで 4 万 6 千世帯の切り替えを行っていて、前半は順調に進んでいたが、後半にいくにつれなかなか切り替えが進まないという状況。このあたりを我々も個別で整理するということになり、住所はあるがそこに住んでいない、入院している、施設に入所している方などだんだん状況が見えてきた。国勢調査や総務省の人口統計で人口と世帯数が出るが、実はこの部分はうやむやではないかと感じている。やはり我々の数字が一番正しいと感じる。なぜなら、現状手続き業務を行っているから。こういったことを感じながら今は事業をやらせていただいている。

最近では入学式・卒業式、体育祭などを撮影して子どもたちの様子を放送しているが、肖像権や著作権、子どもたちの侵害といった部分が今回少し問題として出てきた。いろいろな家庭環境がある中で、なぜこの子を写したか、写すのはいいがなぜ大衆に出したのかといった問題が常に我々にはついて回る。この部分はきちり、学校側やイベント主催者側に撮影の許可を取り、「このイベントでは撮影し全世帯へ放送する」ということをはっきりわかってもらい、暗黙の了解をいただくことしかできない。学校やイベント主催者が一人ひとりに許可を取ることは難しい状況。このあたりが我々放送業界では、非常に難しい状況になってきている。常にこういった問題と背中合わせになっていて、なかなか気が抜けない今日ですが、本日はよろしく申し上げます。

■.番組審議委員長 栗原 宣康 委員長 挨拶

お忙し中みなさんありがとうございます。新年度、番組審議会として新しいスタートとなり、今回は審議主対象番組として特集が 5 本、副対象番組 2 本ということになっている。

時間内にそれぞれの番組に対してみなさんから意見をいただくことは難しいため、今回 5 本の番組のうち 2 本～3 本程度でそれぞれ意見を出していただければと思います。

■. 番組審議

審議主対象番組

『からとび』特集セレクト

ニュース番組・木曜コーナーで昨年12月～4月に放送した特集の中から5本セレクト

①『農家減少にコスト増 唐津の茶業界の現状とこれから』

【初回放送】2024年12月26日【番組時間】約8分 【制作】吉原 浩平

唐津は、嬉野市に次ぐ県第2位の生産量を誇るお茶の産地だが、最盛期は100名以上いたお茶の生産者も今年度は14名にまで減少。このままでは「からつ茶」のブランドが消滅する可能性も。

唐津の茶業界の現状、農家さんの声、これからのビジョンについてまとめました。

●『農家減少にコスト増 唐津の茶業界の現状とこれから』の意見（要約）

木村委員：今回はじめて唐津の茶業界について知り、こんなに生産者が減っていること、茶畑面積も半分以下になっている状況に大変驚いた。私自身も旅館業をしていて、お客様には唐津茶を出しているが、県内はもちろん県外のお客様にも大変好評をいただいている。このお茶が、今後、存続が危ういという状況に驚いている。お茶の継承のためにいろいろと試行錯誤はされているかと思うが、今回番組を見ていて、生産者やJAの方の意見はたくさんあったが、購買者の唐津茶の魅力についての声もう少し反映されていると、もっと唐津茶の良さが伝わって良かったかなと感じた。

山口委員：私たち子育て支援センターでも、食育活動で唐津茶の茶摘み体験や親子で工場見学を行うなど、唐津茶を知ってもらうための活動を10年前から行っている。番組に出演していた久保さんからも、当時からお茶の生産農家が減少していることを聞いていたが、今回、番組を見て当時よりもますます農家の数が減っている状況に深刻さを感じた。この現状を私たち市民が知ることが大事。また以前、久保さんから唐津茶が嬉野と静岡に出荷されていること、出どころが唐津でも最終地がお茶の産地になるということで、唐津茶を使っても静岡で作ると静岡茶になることを聞いて、すごくもったいないなと感じた。これだけ唐津茶が出荷されているのに「唐津」の名前が出てこないことがものすごく残念。また、これだけ生産農家が減少しているという点で、移住者との何かしらの結びつきが今後でき

るといいのかなと感じた。

松尾委員：番組を通して唐津茶の現状を知り、とても驚いた。番組の構成自体は大変良かった。番組最後の「応援するつもりで購入されてはいかがでしょうか」というコメントが良く、見ていた私も「そうだ、買わなきゃ」という気持ちになった。こういった声かけはすごくいいのではと思った。

松田委員：約8分という短い時間で現状がよくまとめられていて、生産者や現場の方々の声をうまく引っ張り出していたと思うが、「じゃあ、どうすれば」といったところ、答えまでとは言わないがヒントらしい道筋があれば良かったかなと感じる。唐津茶をブランド化することと、ペットボトル飲料の原料として生産を支えることとは分けて考えなければならない。ブランド化できればいいが、産地を維持するためには単価は安い原料として供給していくシステムをしっかりと作るなどいろいろな取り組み、やり方があると思うので、そういった部分までまとめられれば、次へのヒントということでさらに良かったかなと感じた。

山下委員：番組そのものというより、産地の現状をどう打開するかという点で『CLAVEL JAPAN』というものがある、平田カーネーションがコロナ禍で各種イベントが自粛され需要が減ったときに唐辛子に転向。その唐辛子が今年、日本一の産地となった。また『唐津ピリカラ協会』というものを作りしっかりブランド戦略を行い、プロのデザイナー（唐津市出身・福岡で活動中）も携わっている。ぜひ唐津茶の現状を打破するという意味において、『CLAVEL JAPAN』『ピリカラ協会』のようなものを『からとび』で作ってもらえれば、他の業界にも大きな参考になるのではないかなと思う。

栗原委員長：この番組で、知らなかったことをたくさん教えてもらった。多くの方がびっくりされた番組だったかなと思う。私自身、志気の広大な茶畑のドローン映像がとてもいいなと思った。

②『唐津南高校竹原未悠さん弁論の全国大会出場』

【初回放送】2025年1月26日【番組時間】約5分 【制作】辻 美由紀

昨年佐賀県高等学校総合文化祭 弁論大会で、唐津南高2年の竹原未悠さんが、佐志食堂をテーマとした弁論で優秀賞を受賞し、全国大会出場を決めた。全国大会に出場するのは、昨年の卒業生に続いて同校2人目。竹原さんはことし8月に行われる全国大会に出場する。

●『唐津南高校竹原未悠さん弁論の全国大会出場』の意見（要約）

森委員：純粋に若者が一生懸命に頑張っている姿は見ていてすごく気持ちがよかった。特に最近のぴ〜ぶるの番組は、高校生を多く取り上げている印象。冒頭挨拶で中村社長からあったように、小学生や保育園生を取り上げたいが、いろいろな問題があるということで、高校生くらいになるとある程度自分自身でテレビに出る出ないの判

断ができ、保護者にも説明がある程度はできるのかなと感じる。若い子たちが頑張っている姿を多くの人に知ってもらうことは、すごく大事なことだと思う。唐津茶の話と同様、知ることが一番大事だと思うし、この番組を通して、出演者の竹原さんを純粋に応援したいなという気持ちになった。8月の全国大会の結果もすごく気になるし、発表内容自体もものすごく気に入っている。これからもこういったことをどんどん発信していってもらいたい。また佐志食堂についても内容としては少しではあるが、取り上げられていてすごく関心を持った。唐津茶の番組に対しても思っていたが、そもそもこういった特集番組を制作する際に、こういったテーマ設定などを行っているのか全体を通して気になっていた。視聴者に知ってもらう・関心を持ってもらう、自分事として考えてもらうというようなことがあるかと思う。自身も含め身の回りのことをあまりにも知らなすぎるなということもあり、番組で取り上げてもらって、特集は番組告知として触りを紹介してもらい、本編としてさらに深掘りした内容を30分程度の番組として放送するとさらにいいのかなと感じた。

亀井：記者がどういう観点で番組として取り上げるかという点は、基本的にそれぞれに一任しているが、事前に企画構成案を提出後、制作という流れ。情報源としては、取材先等で見つけ、その中で気に入ったことを取り上げている。

西委員：私も若者が頑張っている姿を取り上げてもらうことは、すごくうれしく感じる。番組内容としては、竹原さんがどういう思いで取り組んでいるのかなど、もっと深く知りたいなと感じた。先生のインタビューもとてもよかった。学校の雰囲気やその学校の生徒・先生の様子を知ることができるので、保護者や中学生たちにも参考になるような内容だった。今後もこういった番組制作を続けてほしい。

山口委員：南高の生徒や先生が頑張っている様子を地域の人たちに知ってもらうことはとても嬉しいこと。また制作者の辻さんについて、ある子ども食堂の方から「いつも辻さんがきてくれてうれしい」ということを聞いている。常に制作者が地域コミュニティの中に入って地域の人とつながっているからこそ、いろいろな情報を知り発信できていると感じて、とても素晴らしいことだと思った。

栗原委員長：岡本先生のコメントがとても素晴らしかった。このコメントを制作者はどうやって引き出したのか感心した。

③『巖木さいこうプロジェクト～道の駅から描く地域の可能性～』

【初回放送】2025年3月13日【番組時間】約5分30秒【制作】丹野

巖木町では少子化や店舗の閉店が続き、さらに来年には巖木多久有料道路の無償化が予定され、来訪者数の減少が見込まれている。佐賀県と地域住民、市外の人たちが町の現状や課題、その打開策を模索する現地調査を取材しました。年間を通して巖木町の取り組みを取材し今後まとめを放送予定。

●『巖木さいこうプロジェクト～道の駅から描く地域の可能性～』の意見（要約）

山下委員：地域課題をどうやって解決するか非常に大変。この番組と次の審議主対象④について、どちらも RYO-FU BASE（さが産業ミライ創業ベース）が出てきて、活発に議論しているなど感じた。とても印象に残った。

木村委員：唐津茶に通じる部分がある。道の駅に寄る目的をつくるためにフィールドワークを行い、その地域外の人からみた手法を取り入れて、いろいろな気づきがあるんだということを感じさせてもらった。この番組自体が、巖木だけでなく、いろいろな地域で起こってきたときにヒントになるのではないかと感じた。構成的にも良かった。

森委員：要望になるが、今後どうなっていくのか大変気になるため、ぜひ今後も追いかけて番組として放送してほしい。

亀井：今回の制作担当者が現在、巖木地区を追っているため、どこかでまた今後の様子が流れる可能性はある。

松田委員：仕事柄、週に一度は道の駅を利用している。今回の番組も現状がよくわかるものだった。人口減少、過疎化など巖木地区はわかりやすい課題を抱えている地域。道の駅も含めて、生活に密着した部分で今後、番組として深めていってもらえればと思う。それがまた他の地区の参考にもなっていこう。

山口委員：道の駅を利用している地域住民の声も聞けるとよかったかなと思う。午後に行くと野菜が売り切れているなど私もよく耳にする。ちょっとした小さなことではあるが、そういった声が意外と大事なかなと思う。

④『唐津の魅力、新たな資源や価値を内外に発信 唐津 Switch

「根の家 Find Out プロジェクト」

【初回放送】2025年3月27日【番組時間】約7分15秒【制作】田中直也

移住支援や空き家活用を行う NPO 法人唐津 Switch で、昨年から唐津の魅力や新たな資源や価値を内外に発信する新プロジェクトが実施されている。今回、そのプロジェクトに参加した染織家取材しました。

●『唐津の魅力、新たな資源や価値を内外に発信

唐津 Switch 「根の家 Find Out プロジェクト」の意見（要約）

西委員：ある方をターゲットにして『根の家』を使って、どんなことをしているのかしっかり取り上げていて、どういったプロジェクトを行っているのかすごくわかりやすい番組だった。唐津茶の番組同様、唐津に来てもらうきっかけになるような番

組になるといいなと思う。前回審議会でも話したが、視聴ターゲットが唐津・テレビだけでなく、何らかの他の媒体を使って唐津外にも発信して、こういった番組がもっと世に出た方がいいのかなと思った。

⑤『カラーリングマム～環境に配慮した新たな取り組みに挑戦する菊農家』

【初回放送】2025年4月10日【番組時間】約7分30秒【制作】河谷 嘉宏

4 割近くが廃棄となる規格外の菊を加工し、商品化することで、環境問題への解決につなげる厳木町の菊農家の取り組みを紹介。全国でも珍しいカラーリングマムの魅力を多くの人に知ってもらい、「フラワロス問題」・環境に配慮した取り組みにもつながればと取材しました。

●『カラーリングマム

～環境に配慮した新たな取り組みに挑戦する聞く農家』の意見（要約）

松尾委員：『カラーリングマム』という名前をはじめて聞いた。以前、お正月用の花を花屋に頼んだときに今回番組で紹介された花を入れてもらったことがあるが、そのときは私が人工的なものが苦手ということもあって、次回頼む際には入れないでほしいと伝えようと思っていたところ。今回番組を視聴して、廃棄される花を使ったものということを知り、素晴らしい花だということを知ることができた。この花を考案された方に勇気と力をいただいた。番組を見て、すごく元気な方という印象で、今後のことも考えながら活動されていて素晴らしいと感じた。知らないということは罪なことだと感じた。この番組で知ることができ、自身の考え方も変わったし、何でもわかった上で批判しないとイケないなと思った。これからこの花を見かけたら、なるべく一輪でも買って協力したい。いい番組だと思った。

山口委員：唐津の女性で頑張っている人がすごく増えてきたという印象を持った。特にご主人の都合で唐津に来たけれど、唐津に住むならいろんなことをやっていこうとの思いで、外の風を唐津に入れ込んでくれている女性が、ここ数年で増えてきたと感じていて、その中の女性の一人だなという見方で視聴した。

森 委員：素朴な疑問だが、どこで購入できるかということはなかなか放送しにくい部分だと思いつつも、この番組を見た人はどこで購入できるのかぴ～ぷるへ問い合わせる方もいるだろうと思いつつも視聴した。行政放送ではアウトな部分だが、ぴ～ぷる放送としては、どこまで放送することが可能なのか知りたい。

亀 井：情報番組では、住所・連絡先・営業時間などある程度放送するが、ニュースでは微妙なところ。ケースバイケースで対応している。

松田委員：新聞も、読者がもやっとならないようにという意識はあるが、なかなか線引きが難しいところ。

中 村：広告と記事の境目、インフォメーションとインフォーマショナルもそうだが、ビジネスがかった告知と情報提供は分けなくてはならないがグレーゾーンではあ

る。ただ、情報を出すということは、その方のビジネスや考え方など多少エッセンスが加わればいいのかと思う。

松尾委員：取材担当者のナレーションが上手な方もいれば控えめな印象の方もいるが、それはそれで味があっていいかと、今回の特集担当の河谷さんのナレーションを聞いて感じた。特集に出演していた女性が元気な方だったので対照的で面白く視聴した。

中村：狙いとしては、どういう人がカメラを回してどういう思いで番組を制作しているのかという点で、きれいに上手に映し出すという人もいるが、そうではなく、松尾委員がおっしゃったようなことが伝わればいいのかと思う。

森委員：番組尺的には難しいかもしれないが、取材担当者が顔を出して「これについて調べました。お伝えします、どうぞ」という形だといいと思う。他の放送局の特集番組でもリポーターの方が少し概要を話してから特集番組を流すということが多い。

亀井：当初はそのようなスタイルで行っていたが、なかなか収録のタイミングが合わないなどの問題があり、とりやめた経緯はある。

栗原委員長：この番組は、じゅりさんのキャラクターが良く出ていたと感じた。淡々と話されるが、「花は生き物」「気温や天気や湿度で深まりが変わる」「一輪一輪の個性です」などすてきな言葉がたくさん出ていた。そして最後に「巖木の名産といえは、この花といってもらえるようになりたい」という思いも伝えられていて良かった。また何度か見ると、ハウスの中の様子を彼女とご主人に焦点をあわせて周りの花をぼかして映しているシーンが4回出てくるが、それがこの彼女をどうにかして捉えようとしているのが見ていて伝わった。その映像がとてもすてきだった。

審議副対象番組 ①②

●①『からとぴ KARATSU' n NEWS & TOPICS』

2025年1月8日放送回 【番組時間】15分 【制作】富永・清水ほか

地域の話や出来事をデイリーでお伝えしている『からとぴ』。この日は「2年ぶりのおんじゃおんじゃ」「妙見神社どんと祭・赤ちゃん成長祈願祭」「茶苑海月初窯茶会」とコーナー「キッズビジョン：呼子小3年海洋学習」を放送。

キッズビジョンでとりあげた呼子小学校では、海洋学習の一環として地域住民にも参加を呼びかけて小友海水浴場の清掃活動を実施。多くの人に参加してもらおうと今回、呼子小から告知依頼を受け、児童が原稿を考え、清掃活動前に放送しました。

活動当日の様子は後日ニュースで取り上げました。

● 『からとび KARATSU' n NEWS & TOPICS』の意見（要約）

- 木村委員**：「おんじゃおんじゃ」についての意見として、今回、開催が2年ぶりということ
で歴史・いわれの説明があったので、視聴者もそういった部分をしっかり知ること
ができたのではないかと思います。また、開催が2年ぶりということだったので、
消防団や来場者のインタビューがもっとあると「おんじゃおんじゃ」への思いな
どがもっと伝わって良かったかなと感じた。
- 山下委員**：「おんじゃおんじゃ」の番組で戸川宮司が出ていて、八島先生が亡くなられたか
らなのかなと思ったが、同じような疑問をもった視聴者もいたのではないかと思
う。ひと言、戸川宮司が出られた説明が欲しかった。もう一点、「茶園海月」に
ついて、お茶の器の件が気になった。器は同じものを使い回しているのか？
- 森 委員**：10杯限定としていて、器もいくつか用意されているため、同じものを使用・の
み回しではない。
- 中 村**：器の表裏で飲み口の場所を替えていただくのが正式ではあるが、衛生面の問題な
どもあり、コロナ前あたりから今回のような方法で提供されている。
- 西委員**：『からとび』で今回取り上げてもらっている分からは若干それてしまうが、全部
見終わった後に「明日の市内の動き」が紹介されているのが、すごくいいなと思
っている。例えば自治体には公式LINE等があって、明日が燃えるごみの日とい
うような通知があったりしているが、そういうツールを使わない高齢者などが、
こういった番組を見て「あ、明日こういうのがあるね」というようなことで視聴
するきっかけになるのではないかと思います。これまでずっと続けられてきたことだ
と思うので、他にももっと提供する情報を豊富にしてもいいのかなと思う。
- 山口委員**：私も西委員が言われた「明日の市内の動き」について、先日すごく感動した出来
事があった。私たちと佐賀県男女共同参画の方々と一緒に月一で県内のいろい
ろな場所で「女性のためポップカフェ」というものを開催し、生活物資配布や社会
福祉士への相談会等を行っていて、唐津市でも10代から70代までの方が来ら
れる。そのイベントが4/25に唐津で開催する予定だったが、24日の『からと
び』でそのイベントが紹介されていて、嬉しくなり放送されている番組映像の写
真を撮り、子育て支援センターのインスタグラムのストーリーに上げた。また、
来場者の中には、ぴ〜ぷる放送を見て来ましたという方もいて、さらに嬉しくな
った。番組を見て「こんなイベントがあるのか、いってみようかな」というよ
うなきっかけにもなっている。今日はそのお礼も伝えたかった。ありがとうございました。

●②玄海町行政放送

『A | オンデマンドタクシーのるーと玄海 のるーと玄海ってなに？後編』

2025年3月3日放送回 【番組時間】約8分 【制作】中西・吉原

3月1日から玄海町で新しいAI オンデマンド交通『のるーと玄海』の運行が始まり、町民のみなさんに『のるーと玄海』とは何か？をわかりやすく紹介しました。

前編では、AI オンデマンド交通についてや『のるーと玄海』の予約方法を紹介。後編のこの番組では実際に『のるーと玄海』をレポーターが利用してみました。

●『AI オンデマンドタクシーのるーと玄海 のるーと玄海ってなに？後編』

の意見（要約）

山口委員：今回、後編だったので、前編がこういった内容だったのかも知りたかった。またこういった仕組みなのかなども知りたかったため、玄海町のHPで調べ、気になった点もあったため、直接、玄海町役場の担当課に連絡して尋ねた。私たちが子育て支援センターとして情報発信ができればと思い、対象が町民だけなのかという点がわからず尋ねたが、町外・唐津市民も利用できるとのことだった。行政放送であるため、町民の方しか見ないとは思いますが、町民の方からの町外への発信の可能性もあると思うため、番組内でも紹介があれば良かったなと感じた。また、唐津市民や観光者も利用でき、クレジットカード払いも可能ということで誰でも便利に利用することができるということを、リポーターが体験しながら紹介されていて、わかりやすくよかったかなと感じた。HPだといろいろな方が見ることができるため、玄海町役場HPでもどうにかして視聴できるように放送されればいいのかと思う。

吉原：玄海町役場の公式 YouTube はあるため、それを活用して発信することは可能だが、番組を YouTube にアップして発信するかどうかの決定は玄海町役場が都度判断されている。

亀井：現在、玄海町は外部発信へ力を入れられているため、玄海町行政放送の番組で必要に応じて YouTube を活用して発信されている。

森委員：映像を通して実際の使い方がわかった点がよかった。利用したいと思う方には、番組を見て心理的なハードルが下がって良いかと思う。また、運転手との掛け合いで運転手の方のイメージもつき、運賃の支払いのタイミングもわかりやすくよかった。最後によくある質問ということで、Q&A がまとめられていて、すごくよかった。番組途中でコールセンターの番号が出てくるが、その場面で「LINE

で」「QRコードで」というような説明もでてきていたので、あの場面でQRコードをはれなかったのか？この点が視聴をしていて気になった。また、コールセンターとのやりとりの場面で、キャスターは音声があったが、コールセンターの部分がテロップのみだった。コールセンターの部分に音声を入れることはできなかったのか？もう一点気になったのが、番組最後が女性のキャスターと男性の担当者が顔を見合わせて終わっていたため、正面を見て終わったほうが良かったのではないかと感じた。

吉 原：コールセンターの件については、コールセンターの場所が徳島県で対応されているため、収録日の時間帯にあわせて収録を行うことができなかった。また、放送日までの時間も短く今回のような対応となってしまった。

森 委員：誰かが声を入れるということも難しい？番組ではキャスターの「はい、はい」という部分しかなく、コールセンターはテロップだけだったため、文字と音声があるほうがわかりやすいかなと感じた。

松田委員：私もコールセンターの部分は気になった。おそらく利用者の多くは高齢者だと思うため、こういったシステムなのかということもだが、電話したときの相手の対応の仕方がこういった雰囲気なのかということを知ること、電話をかけるという心理的なハードルが下げられると思う。もっと親しみのあるような構成だとよかった。

中 村：私も脇山町長との話の中で、「AI オンデマンド」という言葉が高齢者にとっては「宇宙船にのるようだ」「ロボットのように」といった現実離れたネーミングのようだということをお話したことがある。

西委員：委員の皆さんの話を聞いていて「AI」という言葉が一人歩きしているように皆さんが感じていて、予約電話の対応が機会音声なのではないかというイメージを持っているように感じるし、私自身も町民として最初はそのようなイメージを感じた。しかし、配車時間やルート等をAIを活用して効率化するという仕組みとして「AI オンデマンド」というネーミングが使われているが、そういう点をもっとわかりやすく伝えられればよいと思った。

中 村：私たちは普段当たり前のようにAIという言葉を使っているが、高齢者には「のりあい」「おもいやりタクシー」のような言葉を使ったほうがよいように感じる。

松 尾：そういった部分として「のりーと玄海」となっているのではないかと思います。

■. その他

■. 次回番組審議会について

亀井：次回番組審議会は8月に開催予定。

■. 閉会